

今さら聞けない#92・「推敲」

1. 「推敲」

右掲は、「推敲」でネット検索して出た無料イラストです。折角、書いた文書をグシャグシャにしている様子です。皆さんは文書を書くことが好きだという方は少ないのではないかと思います。最近ではAIで文章をまとめる方が多いと言われていてメール文などで活用されているようです。自分の真意を婉曲に伝えるには格言や熟語などを引用する事が多いので、その言い回しや格言・熟語を探すにはAIが非常に役立っていると感じる方が多いのではないかと思います。私の場合、例えば、パッとイメージが出来れば、それを文書にする事が出来るので比較的、他の方々よりも早く書けるのですが、よく「山登りは八合目から難しい」と言いますように文書を書くのも「八合目」まではパッと行けますが、そこからの仕上げが難しいのです。誤字脱字を正すのは「校正」と言いますが、「質」を高めるのは「推敲」と言います。辞書で調べると「推敲とは、詩や文章の字句や表現を何度も練り直し、より良いものにする事」とあるように手間暇がかかるものです。多くの場合、「八合目」までの時間よりも長くかかります。



因みに「推敲」の由来は、『中国唐代の詩人・賈島(かとう)が、「僧は推す月下の門」という自作の詩句について、「門を推(お)すではなく、敲(たた)くにしたほうがいいのかどうかと迷っていたときに、偉大な文学者の韓愈に助言されて、敲くを選んだ」という故事にあります。韓愈のアドバイスは、「(門を)推すは約束をしていた友がやって来たという感じだが、敲くとすると、ふいに友人がやってきて喜びもひとしおである、というニュアンスになる」ということで、月の美しい夜の来客を喜ぶ詩なら、確かに「敲く」のほうが風情あるという話です。「月下推敲」とも言います。

この意味で、メール文などを書く際にもAIを活用して、普段、使わない表現を探してアクセントをつけるとより真意が伝わると思います。

2. 「第3の青春」

990号の「今年の抱負」の中で「第3の青春にチャレンジ」を書いています。去年、相談役になって肩の荷が下りたので「不踰矩」を弃えて「従心」の時代に入っており、余り考えずに昨年から連載を始めた「栩野正喜の勁草塾」があります。この連載の意義を模索していたのですが、毎年1月2日に家族会を開催していますが、今年も長男家族、次男家族、三男とZOOMで開催して、息子や孫たちの勢いを感じて「これからは自分の時間を充実させる」と気づき、パッと「第3の青春」を閃き即座に「栩野正喜の勁草塾」の充実を思いついたのです。

何故、「第3の青春」なのか言えば、若い時はコンピュータ担当に夢中になって「第1の青春」を謳歌しましたが、諸事情があって46才から経営コンサルタントとして起業して、中小企業の営業活性化に没頭して「第2の青春」を過ごしました。昨年、相談役になって、「生きる目的」を探していたのですが、息子や孫たちの勢いから「次の世代に貢献する」という意義を見出したのです。ネットで検索すると社団法人で「勁草塾」を運営されている団体もありますが、私自身はメルマガの読者の中で「勁草」のように「凜」と立つ方が現れば本望と考えています。

私には、コンピュータの経験や経営コンサルタントの経験がありますので、これを「第3の青春」として若い人たちに伝承できればと思ったのです。しかし、実のところ、とりあえず‘94年にまとめた船井流コンサルタント術を祖術として連載を始めたのですが、意義を明確にしていなかったので、’94年のメモを紹介してコメントを書き加える程度に留まっていたのです。これを機会にイメージチェンジして、「推敲」を重ねて、より皆さまに受け止めやすくして「質」を少しでも高めようと決意したのです。メルマガ自体は3月に1000号になるのを機会にスタイルを変更して「勁草塾」のウエートを高めたいと考えています。

3. 「敲く」でスパイシーに

しかし、「効用遞減の法則」があるように、最初は手応えを感じますが、回を重ねる度に手応えが薄れて、多くの方は「三日坊主」に終わってしまうのです。私は「第3の青春」として再スタートを切るのので、気持ちをリフレッシュさせています。相談役なので普段は仕事の量は少なく、息子からは気ままに記事を書いていると揶揄されていますが、記事を発信するコストはサブスク月17,600円で済んでおり、正にポケットマネーの領域なので気ままですが継続させて頂いています。

そして、これからは、たっぷり時間があるので「量」より「質」にシフトしたいと思います。つまり、「推敲」を重ねて、時にはAIの威力を借りて適切な熟語や格言を交えて行きたいと思っています。「推敲」の由来は「推す」ではなく「敲く」方が「喜び」が伝わるということなので、単なる「味付け」ではなく、さらに一味違う「スパイシーな味付け」に心掛けたいと思っています。「スパイシーな味付け」と言っても、弊社の場合、メルマガで発信するので対価を求める訳ではないので、加島先生の「求めない」の境地で臨むことができます。この優位点を発揮したいと思います。

少し次元が違いますが、例えば、土日に開催している茶話会でも、たまには忘年会のような「晴れ」の演出が「スパイシーな味付け」になっていると喜ばれるのです。つまり、人生は「曇り時々晴れ」が良いと言いますが、平素は地道に「曇り」の生活をして健康を維持しますが、時折、異空間、例えば、旅行や高級料理などに出かけてスパイシーな刺激を受けて心をリフレッシュする「晴れ」の演出が必要なのです。お陰で老人会の方々に喜ばれています。「推敲」の由来でもありますが、「推す」よりも「敲く」は特別な訪問なので、忘年会などの演出が「晴れ」になるのです。

4. 「推敲」でエンジョイ

第1項のイラストで文書をグシャグシャにしていますが、最近はパソコンで文書を作成するので紙をムダにすることは少なくなっています。私の場合、パソコンで作成していますので「推敲」も比較的容易にできています。まず、ザっと書きますが、内容が分かりやすくする図や表を使っていますので、論旨の飛躍が起りにくくしています。また、長文にならないように心掛けて、出来るだけ箇条書きになるように工夫しています。さらに、作成した文章をセカンドモニターにコピーしておいて「推敲」するようにしていますので全くボツになることは回避できています。

そして、書き終えてから間を空けてから推敲すると新しいアイデアが浮かんで来て、内容を書き換えることができるケースが多いのです。文書の途中で書き詰まった際も同じで、少し間を空けると頭がスッキリ整理されて次の展開へ進むことが出来ています。つまり、文書を書く時は「アリの眼」になり易いので、視野を広くする為にも間をおいて「トリの眼」になるようにしています。また、書き詰まった時にAIの助けを求め、つまり、書きたいことに応じた言葉や図表を探して表現をクリアにするのも良い方法と思っています。このようにして文書を書きあげても、さらに間を空けると違ったアイデアが浮かぶことがあります。この時は、原本を保存して、別の名前でコピーして書き直すようにしています。

このように「推敲」はパソコンやAIなどを利用しているので気軽に行えますが、問題は書く「ネタ」を探すことです。この記事は993号用に書いていますが、約20年、毎週、新しいネタを見つけて来ました。しかし、記録を見ると同じようなネタもあることが分かりますが、読み返してみると少し違った角度から書いており、自分の成長を感じます。Fax通信は月2回発信で約20年間、504号まで続け、メルマガは被っている期間もありますが、毎週発信で993号まで積み重ねて来ました。「才能」≒「続けられる能力」と言いますが、私は「続けるための仕掛け」を工夫して来ました。この工夫の一つがシリーズ化です。最近では「今さら聞けない」シリーズで、この記事は91回目になっています。私自身は「推敲」は難しいというよりも「質」的アップなので工夫することが楽しいのです。この「楽しい」という気持ちを大切に、この記事を書き続けたいと思っています。